

学校教育課だより

# かけはし



学校教育課だより  
「かけはし」  
【第6号】  
平成30年  
10月20日発行  
御殿場市教育委員会  
学校教育課

## 「やったことのないことをやりたがる」「あきらめない」「工夫する」

学校給食課長 岩田 隆夫



働きたしてからはや三十五年が経ちました。役所に入って何年か経過した頃、当時、公私にわたってお世話になっていた先輩から、「おまえは誰のために働いているんだ?」と言われたことがあります。今考えれば、一丁前になったつもりで業務をこなし、「私やっています」アピールをしていた頃ではないでしょうか。先輩からの言葉は続きます。「おれたちは、市民のために働いていることを忘れるな、市民一人一人が幸せになるよ

うに仕事をさせてもらっているんだ」ガツンと後頭部を殴られた様な気がしました。その時は、確かに「役所のための仕事」をしていたのですが、結果として「市民のための仕事」にはなっていないかったと先輩の目には映っていたのでしょうか。

最近、TED (Technology Entertainment Design) × Speaker の植松努氏の言葉にヒントを得て、「これが実践できれば何とかなるのかな」と勝手に思い込んでいます。その言葉とは、

「新しい仕事は、世の中の悲しみや苦しみや不便を、何とかしよとやる心から生まれます。その心は、優しきです。優しきは、自信から生じます。自信の無い人は、自分を保つために、自分以下を必要とします。そして、自分を保つので精一杯で、他人のことに干渉してはいけません。自信は、お金では買えません。」

自信は、人を臭下したり自分以下を作っても手に入りません。自信は、一人ぼっちで守れるものでもありません。自信は、やったことのないことをやると増えます。ですから、これからの仕事に対する資質は、

◎「やったことのないことをやりたがる」。(決まっているよ)、「出来ると」しかやっていませんか? ◎あきらめない。(「やっても無駄」「いせ無難」と諦めていますか?) ◎工夫する。(「今までとおりでいいや」、「変えるよ面倒だから」と仕事を流していませんか?)

そして、心の状態は、

「自分は、安心できているかな?」  
「自分は、自信を持てているかな?」  
「自分は、自由に選ぶことができているかな?」  
嫌だ、と言ってもいいんだよ。  
逃げて、離れても、いいんだよ。  
相談してもいいんだよ。

この言葉をかみしめ、何とか実践していければ、「真に市民のための仕事」ができるのではと思う今日この頃です。

### 教師力向上講座「架け橋」

第一回「架け橋(信頼される教職員とは)」は、教育指導センターの勝又康次先生を講師として実施しました。

信頼を得ることが大切なこととはわかりきったことですが、若手教員にとっては、その具体的な姿が見えにくいのが現状です。講義では、勝又先生自身の経験談を根拠にして、明日から実践できる方策をいくつかも提示していただきました。「どんな子も伸びたいと思っている」「まじめで黙々とやる子にスポットを当ててやる」等、勝又先生の言葉からヒントを得た方も多かったことと思います。

先生の話された「生徒に対して正直に接する」「ことを意識して、個の悩みや学級の問題に取り組んでいきます。」

何といつても「学級新聞」です。これにつきます。とてもハイレベルでした。七月からやってみようと思います。

これらは参加した研修員の感想です。ユーモアにあふれた勝又先生の講義からは今後の指針となる言葉がいくつもありました。

第一回「架け橋（目指す子どもの姿を明確にし、意欲的に学び、成長する子どもを育てる学級づくり・授業づくり）」は、朝日小学校の山田弥生先生を講師として実施しました。学級づくりや授業づくりでは「聞くことの指導が大切である」ことは周知のとおりです。山田先生は、学級経営や授業の具体的な場面を切り取り、山田流の声かけ方法や指導方法を教えてくださいました。また、自身が行っている学び合い学習や教材の工夫例等も豊富に紹介してください、充実した会となりました。

**私も「聞くこと」を大切にしていますが、「本当に内容まで聞いているか」までは確認していませんでした。今日教えていただいたことを生かしていきたいです。**

**先生のクラスの子どもは熱があり、仲間で助け合う素敵な姿がありました。私もこんなクラスをつくってみたい！と強く思いました。**

これらは参加した研修員の感想です。山田先生の明るく前向きな言葉に「よし、やってみよう」と心を新たにされた方も多かったと思います。

教育指導センターから

# 風薫る

## 前期を振り返る

### 教育指導センター指導員

岩田 京子

木々が紅葉に彩られる季節を迎えています。爽やかな秋は授業づくりや学級づくりが形を成し、努力と実践を重ねてきた先生方の確かな成長の手応えを感じられる季節でもあります。

### ◆新たな取組

今年度教育指導センターでは、経験四・五年目の先生方を対象とする「事前授業検討を伴う授業指導」に取り組んでいます。授業構想から指導員が関わり、共に授業を考えることで授業の質の向上を目指すものです。

事前検討で授業者は、子どもも観や教材観、授業に対する思いを熱く語り、指導員と意見交換をします。その後授業案を再考し、後日参観授業を行います。当然ながら事後指導は授業者主体の研修として

深まります。

授業者はこの実践を通して、子どもの実態把握、教材研究、単元構想の大切さを改めて実感していました。また、「授業を読む」「個々の教育活動を意味付ける」「目標を具体でつかむ」といった授業実践への視点にも気付いていきます。

事前検討を終えると、ほとんどの先生方が笑顔で「授業をするのが楽しみです」と言います。授業づくりの難しさ以上に、楽しさを感じることができていたようでした。

先生方と話し合っていると、初任からこれまでに経験した事柄が着実に蓄積されていると感じます。じっくりと時間をかけて授業を語ることが、それらの自己認知と整理のきっかけづくりになってくれることを期待しています。

### ◆「板書」は誰のため？

▲発言のすべてを書く。そのために教師は板書に忙しく、発表者を見ない。発言は背中で聞く。▲子どもが式や答えを発表し、すべて教師が整えて板書する…。板書計画だけ

でなく意義を考えることが大切です。

### ◎板書が生きた実践例

梶原先生は、子ども目線にかぼちゃの表情にこだわり、慎重に挿し絵を選びました。伸びるつるのアイデアは先輩からのアドバイスです。



御殿場小学校1年梶原里奈先生  
道徳「かぼちゃのつる」

よく考えられた板書に引き込まれ、黒板は子どもたちのステージとなりました。黒板の前に立ち、お話に溶け込んでかぼちゃになりきります。生き生きとした表情で自分の思いを語りました。

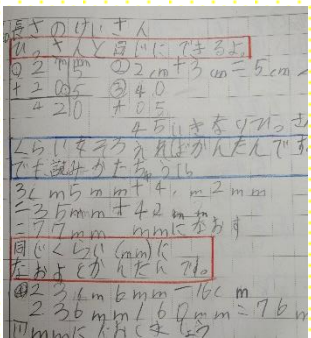
### ◆「ワークシート」多用？

ワークシートを用いる授業が増えています。図形やグラフ、表や資料等々、効果的な場合はたくさんあります。し

かし、内容や活用の仕方にな意が必要で。穴埋めドリルのようなシートや思考を限定させる内容は主体的な学習を妨げます。

また、ノートを使用することが基本であることを忘れてはいけないと思います。

六月の神山小学校川口紗幸先生の算数で、二年生が問題文を短時間でノートに書く様子が感心しました。十月の長さの計算では、赤囲みの学習課題と課題解決の自分の足跡まとめは「くらいをそろえればかんたんです。でもよみかたちゆうい」青四角で囲まれています。必要なことが自筆で十分書かれていました。書く力が育っています。



後期も、様々な視点から授業を考えたいと思います。